

記ノ次第並利権契約ノ当該条項カ北京議定書乙ニ基礎ヲ有  
スルモノナルニ鑑ミ本官ハ「ソ」連邦政府ノ名ニ於テ右一  
年期間ヲ明年二月一日迄延期スルコトニ異議ナキ旨通告ス  
トノ趣旨ヲ申越シ本使ヨリ同日付ヲ以テ日本政府ノ名ニ於  
テ右ニ同意ノ旨回答スルコトナリ二十三日右公文ノ交換  
ヲ了セリ尚利権委員会本部ト当業者側トノ間ニ於テハ双方  
ノ署名セル十日ノ會議「プロトコール」ニ本件延期ノ決定  
ヲ記載セルニ付別ニ文書ノ交換ヲナササルコトトセリ  
関係書類写郵送ス

2 森林利権

二二〇 一月十日 在ハバロフスク川角総領事代理ヨリ  
幣原外務大臣宛 (電報)

短期契約ニツキ交渉ノ結果マトマリタル条件  
報告ノ件

第六号

往電第五号ニ関シ成田代理神野ヨリ露領漁業組合藤田へ左  
ノ通 (電信料依頼人払)

件 エリンノ談話ニ関スル田中大使ノ報告内報ノ

歐一機密第三九号 (機密)

大正十五年一月十一日

欧米局長 広田 弘毅 (印)

(京橋大倉組氣付)

露領林業組合長 門野 重九郎殿

林業利権ニ関スル「チチェリン」談話ノ件  
在「ソヴィエト」連邦田中大使カ本月六日外務人民委員  
「チチェリン」ニ会见ノ節林業利権ニ関シ「チチェリン」  
ハ「ハバロフスク」ニ於テ既ニ大体話合纏リ居ルニ付可成  
速ニ莫斯科ニ代表者ヲ派遣シ契約ノ成立ヲ見ルコトヲ望ム  
ト述ヘタルニ依リ右ハ甚タ結構ナリ東京へ報告シ置クヘシ  
ト答ヘ置キタル旨電報アリタルニ付御参考迄茲ニ内報ス

二二二 一月十五日 門野露領林業組合長ヨリ  
広田欧米局長宛

林業利権契約ノタメ派遣スル代表等ノ氏名通

報及ビヤンソンノ交渉権限ニツキ問合せノ件

大正十五年一月十五日

九 日ソ間ノ利権交渉 二二二

短期契約種々交渉ノ結果条件ハ  
石数十五万石 (150,000) 以上成田氏名義ニテモ差支ナ  
キモ「モスコ」へ電照中

施業費撤廢

林務官舎一棟建築費五千ルーブル (5,000) 納入ノ事

木代、蝦夷、檜、落葉松、小丸太四カベック、中丸太五  
カベック、大丸太六カベック紅松中丸太八カベック、ス  
ンケンボウハ従来ノ通木代単価ノ二十五パーセント割増  
ノ事此短期契約ハ長期成立セハ無条件解約ノ事ホカ「グ  
ロデツキー」案ト同様木代二十五パーセント割増ニ反対  
セルモ外国資本案ニ対シ短期拵下ヲスルハ今回カ始メナ  
ル故割増ナシテハ許可出来ヌト言フ乍併二十五パーセン  
ト以内ニテ纏ル見込アリ此点御委セテ請フ尚林務官舎建  
設ハ拒絶セルモ長期成立セハ必要ナル建物故此際建設セ  
ヨト言フ

右ニテ差支ナケレハ直ニ契約テキル至急返電乞フ

二二一 一月十一日 広田欧米局長ヨリ  
門野露領林業組合長宛

林業利権ニツキ速力ニ契約ヲ希望ストノチ

露領林業組合長

門野 重九郎 (印)

外務省

欧米局長 広田 弘毅殿

對露林業利権ニ関スル件

右件ニ関スル一月十一日付第三十九号御書面難有御請仕候  
代表派遣ノ件

上記御転電ノ御趣旨ニヨリ早速協議ノ結果代表及委員等一  
行左記ノ通り決定本月末出立ノコトニ相成候間右ノ次第  
「ソヴィエト」連邦当局者へ御通報相煩度尚一行ノ披露  
ニ対シ諸事便宜ヲ与ヘラレ候様御高配願上候  
尚今回着任ノ「ヤンソン」商務官ニ於テ林業利権交渉ニ応  
スル意向ヲ有スル如キ口吻ヲ洩ラシ居候処同氏ハ果シテ斯  
カル権限ヲ有シ居ルヤ又本国政府ニ於テ同氏ヲシテ当地ニ  
テ交渉セシムル意向ヲ有セラルルモノナリヤ等御照会被成  
下候ハハ幸甚ニ存候

一行氏名

敬具

代表 梅 浦 健 吉

委員 石 上 林 二郎

委員 横井半三郎  
 同 成田忠正  
 同 瀧口寅之助  
 同 阿部有真  
 随員 吉田宗雄  
 同 瀬沼恪三郎  
 同 シウキン  
 以上

(欄外記入)

一、一月十四日成田忠正「ヤンソン」随員法律顧問「ベッ  
 プラン」ニ莫斯科行ノ件申入レタル処右ハ何等差支ナキ  
 旨返事シタル趣梅浦氏ヨリ電話通報アリタリ  
 二、一月十六日「モスコ」田中大使ニ電スミ

二二三 三月二十日 露領林業組合ヨリ  
 二瓶欧米局第一課長宛

梅浦代表ヨリ送付アリタル林業利権契約新ソ  
 連政府案写送付及ビ梅浦代表ノ意見申進ノ件

大正十五年三月二十日

尊重スル故同時ニ当方ノ商人トシテノ採算ニ対シ尊重セラ  
 レタキ希望ニ対シ即座ニ賛意ヲ表シタル行掛リモアレハ数  
 日中ニ「ミンキン」氏ヲ往訪シテ「アンナ篋棒ナ案ヲヨク  
 モ寄越シタリ吾々ノ採算ニ就テ少シテモ考慮シタリヤ誠意  
 ノ存在ヲ疑フ斯クノ如クンハ吾々トシテモ大ニ決意セサル  
 ヘカラス云々」ノ意味ニテ先ツ劈頭第一最モ強硬ナル逆襲  
 ヲナス積リニ候

扱テ在京当時然程迄考ヘサリシコトニテ当地着後種々研究  
 ノ結果左記明瞭ト相成候

(1) 対政府契約団体ハ前便ニモ申上候如ク法人格ヲ具ヘタル  
 モノトナスノ要アルコト即チ相当資本額(一千万円位)  
 要望アルヘシ)ノ株式会社又ハ其他ノ法人トナシ全林区  
 ヲ一括シテ該法人ニ移譲ノ形式ヲトルノ要アルコト

(2) 工場建設義務ハ全林区ニ対シテノモノナルコト即チ全林  
 区中適当ノ場所ヲ選ヒ何ヶ所ノ工場ヲ設置スヘシトノ意  
 味ニテ従来小生等ノ考ヘ居リタル如ク特定ノ林区ニ付帯  
 定着シタルモノニアラサルコト従ツテ實際問題トシテハ

第何林区ノ引受者カ工場建設ノ義務ヲ負担スルモノニア  
 ラスシテ全林区ノ関係者一同連帯責任ニテ何ヶ所カノ工

露領林業組合

欧米局第一課長 二瓶 兵二殿

拜啓梅浦代表ヨリ露国政府案送付来リ候ニ付写一通及同氏  
 来状写一通茲許御送付申上候

敬具

大正十五年二月二十七日

於莫斯科 セレクトホテル

梅浦健吉

東京

林業組合 御中

拜啓前略二十三日迄ニ交付ノ答ナリシ新政府案二十四日夜  
 ニ入り漸ク到達只今翻訳出来セシ許リニテ未タ通読スラ了  
 セス候ヘトモ今夕出立ノ中谷代議士帰朝ノ幸便ニ托シ取敢  
 ス御送付仕リ候

工場建設義務施設案費跡片付義務等依然タルノミナラス寧  
 ロ加重ノ形ト相成候尤モ此案ハ前便ニモ申候如ク「ミンキ  
 ン」氏自ラ決シテ最後案ニアラサル旨特ニ付言シタル程ノ  
 懸引含蓄案ラシケレハ当然カトモ思ハレ候然シ前回面談ノ  
 節当方トシテハ政府側ノ利権解放ニ対スル根本趣旨ヲ大ニ

場ヲ建設スヘキモノニ候故ニ我組合トシテハ工場建設経  
 営ノ義務ヲ果タスヘキ会社ヲ別個ニ造リ各林区ノ納入木  
 代金按分ニテ該会社ノ株式ヲ割賦スルナト一案カト存候  
 工場問題等ハ極力回避緩和ニ努ムヘキハ勿論ナレト彼ノ  
 利権開放ニ対スル根本趣旨ノ一ナレハ以上二問題トモ当  
 然逢着スヘキ事案ト存候予メ御攻究ノ上御高見御電示煩  
 度候 匆々

二三四 四月十四日

在ソ連邦田中大使ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

梅浦代表ヨリ組合ニ対シソ連側ガ林区ノ変更  
 ヲ申出タルニツキ會議ノ打切ヲ宣シタルモ妥  
 協シタル旨報告ノ件

付記 大倉組速水篤治郎宛二瓶欧米局第一課長宛書簡  
 第一回予備會議ノ模様等ニ関スル梅浦代表ノ来  
 状写送付ノ件

第一三七号

(四月十五日接受)

林業組合藤田へ梅浦ヨリ

昨日第一回本會議ヲ開キタルニ劈頭第一ニ政府ノ意向方針  
 ナリトシテ沿海州南部林区ハ保留シ置キ度キニ依リ

一、従来ノ八乃至十三林区ヲ北部ノ一乃至八林区ニ変更シタル旨ノ宣言アリタル故林区ノ変更ハ当方ノ根本目的ヲ没却スルモノナルニ依リ會議続行ノ要ナシト憤然退席セントシタルニ狼狽ノ色ヲ表シ工場問題ト併せて妥協解決セントスル意向ヲ示シ又全権委員自身立場上ノ苦衷モ訴ヘタルニ依リ考慮ノ上次回ノ討論ヲ約シテ散会セリ

二、次回ニ於テモ林区ハ四乃至十三林区トシテ強硬ニ譲ラサル方針ナルモ林区多ケレハ正比例的ニ工場義務ノ負担増加ヲ免レス若シ其緩和資料トシテ林区ヲ譲ルトセハ何林区ヲ割愛スルカ林区価値ノ尠キモノハ其効ナキコト勿論ナリ

三、工場問題ニ付テハ法規ノ研究各種工場ノ視察調査ニ依リ左ノ結論ヲ得タリ

四、現下ノ労働条件ノ下ニ於テ輸輸出製品ノ製造工業ハ經濟的ニ成立不可能ナリ生産費ノ増嵩甚タシク他国品トノ競争ニ堪エサレハナリ

五、極端ナル現在ノ保護貿易政策ヲ利用シテ露国内需要品ヲ製出スルニ於テハ比較の有利ノ結果ヲ得ヘシト思ハル設備不完全経営幼稚ナル現在ノ国营諸工場ニテモ尚且取

(別紙)

大正十五年三月二十七日

在モスコ

梅浦 健吉

東京 大倉 頭 取 殿  
門野 副頭取 殿

謹啓益々御健勝ノ由何ヨリト存上候陳者森林利権ノ主任者タリシ「ミンキン」氏数日前突然解職セラレ「ヤブルスキ」氏代ツテ吾々ノ交渉ニ当ルコト相成一昨二十五日午後七時ヨリ最高利権局ニ於テ第一回予備會議ヲ開キ各關係官庁ノ係官十四名列席政府原案ノ各条項ニ対スル吾々ノ質疑ニ対シ説明応答シ意見ノ交換ニハ至ラスシテ十一時閉会仕候其説明及提供セラレタル資料ニ基キ更ニ研究ヲ重ネタル上本會議ニ入ル積リニ御座候先般ノ石油石炭交渉ハ労働者団体契約ノ内容ニ関シ不用意ナリシ如ク今更ラ非常ニ困リ居ル模様ニ御座候大使館ノ係官モ今ニ至リ其手落ちヲ認め居リ候目下職業同盟ヨリ石油石炭利権者ニ提出シ居ル団体契約案ニヨレハ労働予算算ハ著シク増嵩致スヘク仮リニ多少ノ譲歩アリトスルモ生産原価予算ニ大違算ヲ及ホスヘク

益ヲ挙ケツツアリ

要シタル丈ノ生産費ニ利益ヲ加算シタルモノヲ公定市価トシ一面輸入ヲ防圧シテ他国品ノ競争ヲ許ササレハナリ故ニ利益企業タルカ為メノ特別ノ負担アルモ国内現在ノ企業工場ト競争スル事困難ナラサルヘシ

六、以上結論ニ依リ「バルブ」ノ如キ半製品ヲ作りテ日本ニ輸出スル事ハ採算不可能ナリ(概算FOB二百八十円トナル)寧ロ進ンテ露国内向製造ヲ為サハ相当引キ合フヘシト思ハル但シ販路ニ付政府ヨリ或程度ノ保証ヲ得ル事必要ナリ代金回収ニ多少ノ懸念アルヲ欠点トス

(付記)

大倉組速水篤治郎発二瓶欧米局第一課長宛書簡  
第一回予備會議ノ模様等ニ関スル梅浦代表ノ来状写送付ノ件  
大正十五年四月十五日

大倉組

速水 篤治郎(印)

欧米局二瓶第一課長殿

拜啓陳者在莫斯科梅浦健吉氏ヨリ弊社大倉、門野両氏宛来状写別紙御参考迄御送付申上候間御高覽被下度候 勿々

ト存候而カモ露国ノ現状ハ法律上ハ兎ニ角實際上職業同盟ヲ通セスシテ労働者ヲ得ラレサル故結局不利ナル条件ヲ忍フノ止ムナキニ至ルヘクト存候殊ニ政府ト労働同盟トハ声息相通シ居ル關係ニ在リ利権契約ノ譲歩点ヲ利権者「ヂレンマ」ニカカリタルカノ如キ感致候小生等ハ再ヒ其轍ヲ踏マサル様ニト一入慎重ニ攻究シ居ル次第ニ御座候

利権委員会ノ発表スル所ニヨレハ本年一月一日迄ニ外国人ニ払下ケラレタル利権数ハ百十七件ナル由ニテ内訳左記ノ如クニ候

国名	純利権会社	合併会社	總数
独逸	二〇	九	二九
英吉利	一六	五	二一
亞米利加	一一	二	一三
瑞典	四	一	五
諾威	四	一	五
日本	四	〇	四
伊太利	四	〇	四
仏蘭西	三	〇	三
丁抹	三	〇	三

芬蘭 三〇 三  
其他 二五 二七

尚右ヲ事業別ニシタルモノ左ノ如クニ候

種別	純利權会社	合弁会社	總計
商業	一八	一五	三三
製造工業	二〇	三	二三
鉱山業	二〇	一	二一
運輸及連絡業	六	六	一二
農業	一六	〇	一六
林業	二	四	六
建築業	二	〇	二
其他	二	二	四

以上

二三五 五月十二日 在ソ連邦田中大使ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

梅浦代表ヨリ組合ニ対シ我方提出ノ三案ヲソ

連側ガ拒否シタルタメソノ対策問合セノ件

第一七六号

(五月十三日接受)

梅浦ヨリ露領林業組合藤田好三郎宛

条件トス

第三案 製紙一万噸及之ニ必要ナル「パルプ」工場ヲ適當ナル場所ニ建設シ直ニ政府ニ移讓シテ政府ノ経営ニ任ス事

右建設元利金(利率年一割二分)ハ二十五年賦トシ政府ニ納入スヘキ木代金諸税金ヲ以テ相殺シ残額ハ現金支払ノ事

右工場所要現材料ハ政府ノ希望ニ依リ生産費ノ一割二分増ニテ供給スル事其以外ノ木代ハ全部自由ニ輸出セシムル事

技術者ハ希望ナラハ融通スル事等ヲ付帯条件トス

以上三案共其規模ヲ一万噸ト限定セルハ一同會議攻究ヲ重ネタル結果「コッピ、フーツ」ノ如キ最大林区ト雖モ一万噸以上ノ所要現材料ヲ供給シ得ラレス又他林区ノ物ヲ運材スルハ經濟的ニ不可能ナリトノ結論ニ依ル

右三案ニ対シ政府ハ規模期限共ニ原案トノ懸隔甚タシク到底協調ノ余地ナシ新案ヲ提出セサルニ於テハ會議続行ノ要ナシト強硬ニ拒絶セリ結局至急専門家委員會ヲ開キテ伐出費及「パルプ」製紙ノ生産費内容ニ対シ彼我ノ意見ヲ交換

其後本會議ヲ開ク事二回八林区ヨリ十二林区迄ヲ絶対希望林区トスル前提ノ下ニ工場問題ニ入り極東ノ特別ナル事情ヲ述ヘテ「パルプ」製紙ヲノミ生産板紙輸出品トシテ不引合ナル故經濟的見地ニ於テハ工場建設不可能ナルモ条件付ナラハ工場建設ノ好意ヲ有スル旨ヲ説キ左記三案ヲ提出セリ

第一案 製紙一万噸及之ニ必要ナル「パルプ」工場ヲ調印後六ケ年内(調査二年建設四年)ニ建設スル事

付帯条件トシテ政府ハ製品全部ヲ生産費ニ一割二分増ノ価格ニテ買上ル事

製品ハ停滞セサル様逐次引取ル事

右代金及諸税金ヲ以テ相殺シ不足分ハ現金支払ノ事

右工場以外ノ木材ハ全部自由ニ輸出シ得ル事

将来ノ情勢ニ依リ工場ヲ拡張スル事

第二案 製紙一万噸ノ工場ヲ調印後五ケ年内ニ建設シ所要

「パルプ」ハ外国品又ハ露国内品ヲ買入レ充當スル事

外国「パルプ」買入ノ場合ハ無稅輸入ヲ許ス事

木材ハ全部自由ニ輸出セシムル事

其他製品買上代金支払將來ノ拡張等ヲ第一案ト同様付帯

シテ不引合ノ理由ヲ説明スル事ニシタルモ先方ノ意向ヲ翻ヘシムルニハ至ラサルヘシト思ハル依テ此際右三案共利率及期限ニ於テハ多少讓歩ノ余地アルモ他ニ余地ナキ旨決裂ヲ期シテ強硬ニ主張シ若シ決裂セハ田中大使ノ仲裁ヲ煩ハシ双方ヨリ新案ヲ提出スル事ト為スヲ會議促進上最善ノ策ト信ス貴見如何

尚決裂後ノ新案ニ付当方考究中ナルモ貴方ニ於テモ案出アリタシ

二三六 五月二十一日 在ソ連邦田中大使ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

梅浦代表ヨリ組合ニ対シ森林利權契約ニ伴フ

諸問題ニツキ報告ノ件

第一九五号 (五月二十二日接受)

露領林業組合藤田好三郎へ梅浦ヨリ

貴電拜見工場ニ関スル前電三案提出ノ際<sup>(第二?)</sup>大体系ヲ最希望スル旨ハ付言シ置ケルモ利權法ノ精神ニ照シ第二、三案ハ最

困難ナリ第一案モ規模年限ニ於テ妥協六ケ敷モ目下最善ヲ尽シツツアリ先方提出ノ「パルプ」生産費ハ四月十七日付書信ニテ送付セシ如ク三万五千噸生産トシテ港外渡噸七

五・四七「ルーブル」ニシテ当方トノ懸隔甚シク彼我生産費ノ内訳ニ付来ル二十九日詳細討議スル筈尙当地製紙工場ニテノ調査ニ依レハ中等紙生産費二百三十留見当ナリ(工場仕上ノ利息ヲ含マス)第二案トセハ工場ハ浦塩斯徳ヲ可トスルコト同感ナリ既ニ該案提出ノ際説明シ置キタリ

二二七 七月五日 在ソ連邦田中大使ヨリ 幣原外務大臣宛(電報)

ソ連側ガ林区ノ変更ヲ申出タル背後ニツキ鈴

木商店等ト關係アラバ回電アリタキ件

第二七五号 (七月六日接受)

貴電第一三号末段ニ関シ

林業利権商議最近ノ成行ハ往電第二七二号ニテ御承知ノ通り先方ハ梅浦等カ当初ヨリ希望セル林区ノ提供ヲ決定的ニ拒絶セル趣ナルカ梅浦等ハ從來ノ経緯ニ鑑ミ之ヲ以テ先方ヲ不誠意ナリトシ一面抗議書ヲ提出セントスルト共ニ他面本使ニ対シ本使ヨリ先方ノ反省ヲ促ス様希望申出テアリ然ルニ先方カスル態度ニ出テ来リタルハ単ニ交渉問題ニ対スル掛引上ノミナラス反面「ダリレス」ト關係アル鈴木商店等ノ暗中飛躍カ其効ヲ奏シツアル結果カトモ観測セラレ

林区ハ設備完全セルヲ以テ此ヲ直ニ没収シ利用セムトスルモノニシテ不法ノ行為ナリ而シテ猶彼ノ反省ヲ促シ得ストセハ南部林区ニ於ケル吾等ノ財産ハ自由ニ処分シ日本ニ持帰ルコトノ交渉ヲ為スヘシ北部林区ハ其ノ価値乏シケレトモ北樺太ト共ニ帰朝後方針ヲ決定スルコトトシ参考ノ為先方ノ条件ヲ貴君ハ代表トシテ表面ニ出テス大使館ニ依頼シ尙他ノ手段ヲモ用ヒ探求セラレタシ

二二九 七月九日 幣原外務大臣ヨリ 在ソ連邦田中大使宛(電報)

農林省及ビ当業者ハ南部林区ノ獲得ヲ希望シ

オルコト並ビニ鈴木商店トノ交渉結果ニ関ス

ル件

第一五〇号

貴電第二七五号ニ関シ

農林省及当業者ト打合セタル処農林省ハ本邦山林ノ現状ニ照ラシ本利権ヲ相当重要視シ切ニ南部林区ノ獲得ヲ希望シ居リ当業者ノ意向モ亦往電第一四九号ノ通りノ次第二ニ北部林区ノミニテハ到底採算困難ナリトテ此際貴官ノ尽力ヲ懇望シ居ルニ付從來我当業者カ南部林区ノ長期利権ヲ予期

サルニ非ス此ノ辺ノ事情ハ梅浦等貴地出発前貴方ノ御考慮ニ上リタルコトナルヘキニ付其後ノ模様等本使ノ参考トスヘキコトアラハ是非回電アリタク若シ果シテ右観測ノ如キ事情アリト認メラルルニ於テハ本使カ斡旋ナスモ効果少ナルヘク本使ノ立場モ甚タ「オークワード」トナルヘキニ付此際梅浦等ヲシテ一応当初ノ希望ヲ捨テシメ先方提供ノ林区ニ付交渉ヲ纏メシムル方適當カト思考ス右ニ付何分ノ回電アリタシ

二三八 七月九日 幣原外務大臣ヨリ 在ソ連邦田中大使宛(電報)

梅浦代表ニ対シ強硬ノ態度ヲ示スタメ帰朝ノ

準備ヲシ先方ノ反省ヲ促スヨウ指示ノ件

第一四九号

露領林業組合ヨリ梅浦へ

別電ノ通りニ付先方ニ対シ強硬ノ態度ヲ示ス為メ帰朝ノ準備セラレ一面田中大使ニ対シ切ニ先方ノ反省ヲ促ス様依頼セラレタシ尚左ノ二点ニ於テ先方ヲ大ニ詰責スル必要アリ一、南部林区ニ於テハ從來長期ヲ好餌トシ短期ヲ継続セシメタルモノニシテ此ヲ取上クルハ欺瞞ノ行為ナリ二、南部

シ尠カラサル犠牲ヲ払ヒ来リタル経緯ニモ顧ミ先方ヲシテ南部林区ノ特許方再考セシムル様斡旋セラレタシ尚鈴木ノ關係ニ就テハ「ハバロフスク」交渉当時ニ於テ組合側ヨリ直接金子直吉氏ニ交渉ノ結果同氏ハ組合ノ立場ヲ諒トシ出先ノ者ニ対シ本件交渉ヲ妨害セサル様電報シタル由ナルモ其ノ後ノ事情ハ判明セサル趣ナリ

二四〇 七月十三日 在ソ連邦田中大使ヨリ 幣原外務大臣宛(電報)

林業利権交渉ニツキチェリントノ会見結果

報告ノ件

第二九三号 (七月十四日接受)

貴電第一五〇号ニ関シ

梅浦ノ意見ヲ参酌シタル上十三日「チチェリン」ニ会見シ本件交渉ノ決裂ハ両国経済關係上甚タ遺憾ナル旨ヲ述ヘ南部林区ハ多年日本側ノ希望セル処ニシテ今回ノ交渉ニモ初メヨリ之ヲ明カニセルニ拘ラス遂ニ其全部ヲ拒絶セルハ意外ナリ北部林区ハ価値少キニ付此際南区希望者へ区ノ半分ナリトモ譲リ受ケ度シ尤モ工場建設等ノ問題ヲ切離スニ付期間八十年内外ノ短期ニテモ已ムヲ得サルヘシ

右ニ付「チ」氏ノ斡旋ヲ希望スル旨ヲ述ヘタルニ「チ」ハ交渉ノ決裂ハ自分ニ於テ初耳ナリ自分ハ常ニ本件ヲ兩國ノ為メ何トカ纏メ度キ希望ヲ有スル次第ナルニ付更ニ事情ヲ質シ御希望ニ応スル様尽力スヘシ但シ目下共產党中央委員會開催ノ為メ重ナル者ヲ集メル事困難ナルニ付回答ハ暫ク待タレ度シト述ヘタリ尚「チ」ハ旧病再発先般來時々引籠リ居リ此日ノ会見ニ於テモ衰弱ノ態ニ見受ケタリ

二四一 七月十五日 在ソ連邦田中大使ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

代表團ヲ解散シ梅浦、瀬沼兩人残留ノ件

第二九八号 (七月十六日接受)

林業組合藤田へ梅浦ヨリ

「チチエリン」氏ノ尽力ニ依ル先方ノ回答ハ十数日後ナラテハ得ラレス見込又多クノ期待モ六ヶ敷当方ノ態度ヲ示ス為及費用ノ關係上一行ハ予定ノ通十八日解散シ小生及瀬沼氏ト踏止リ最後ノ結論ヲ取纏ムヘシ

二四二 七月二十三日 合名会社大倉組ヨリ  
二瓶欧米局第一課長宛

五ヶ条丈ケ協定ヲ見ルニ至リ候之レニヨリ各条項ニ対スル双方ノ意向大体分明致候間工場其他ノ重要問題ヲ一括シテ急遽決定的討議ヲナスコトト相成昨日來連日或ハ朝夕二回宛開會ノコトニ打合セ申候戰機漸ク熟シテ決戦遠カラサルヲ覚ヘ候多分本本着到迄ニハ関ケ原ノ争奪決定仕ルヘクト存セラレ候

労働法改正ノ件

右ニ付テハ前便其梗概ノミ申上置候処其後季節労働者ニ対スル別紙改正法發布セラレ候法令ノ日付ハ六月四日ト相成居候得共實際ノ發布ハ六月十六日ニテ同日我官報ニ等シキ「イズベスチャ」紙ニテ公布セラレタルモノニ候

婦人ノ深夜業廃止論將ニ実施セラレントスル世界ノ大勢ニ逆行シテ却ツテ婦人ノ深夜業ヲ復活セントス而カモ其レカ労働「ロシア」国ナルニ於テ興味一入ナルヲ覺エ候之レ畢竟産業振興策上止ムヲ得サルニ出テ候モノニテ産業立国策ヲ確立セントセハ労働時間ノ短縮深夜業ノ廃止等ハ到底実行不可能ナルヲ指示スル好個ノ殷鑑カト存セラレ候

右ノ改正ハ単ニ其一端ニ過キス目下労働法改正委員会ニ於テ種々審議中ニ候間將來引続キ各種ノ改廃有之ヘキカト存

労働法改正問題等交渉經過ニ関スル梅浦代表ノ報告写送付ノ件

大正十五年七月二十三日

東京市京橋区銀座二丁目七番地

合名会社 大倉組

欧米局第一課長 二瓶 兵二殿

拜啓

在露都梅浦健吉氏ヨリ弊社門野副頭取宛來信写御参考迄御送付供貴覽申候

(別紙写)

大正十五年六月三十日

在露都

梅浦 健吉

門野 副頭取 殿

謹啓

林業交渉ノ件

生産費ニ関スル三回ノ委員会後逐条審議ニ入ルコトト相成昨日迄ニ一通り全条ノ討議ヲ終ヘ全条七十八ヶ条ノ内三十

候

(別紙写)

大正十五年七月四日

在露都

梅浦 健吉

門野 副頭取 殿

謹啓陳者

林業交渉ノ件

其後重要条項ノ大半ヲ議了シ候処一昨二日トロツキ、チチエリン其他御歴々ノ最高利権委員參集最後ノ決定的會議ヲ開キタル結果(イ)当方希望ノ南部林区ハ条件ノ如何ニ拘ラス許可セヌコト(ロ)北部林区ナラハ所要林区丈ケ当方ノ選択ニ任スルコトヲ決議シ通告シ來リ候林区問題ハ本交渉劈頭第一ノ争点ニシテ利権代表ハ其當時或程度迄ノ誓約ヲナシタルニ拘ラス今日ニ及ヒ突如トシテ斯カル処置ニ出テ痛憤ニ堪ヘス其不信不義ヲ難詰駁論シテ交渉ノ断絶ヲ声言スルノ止ムナキニ至リ半歳ノ苦衷一空ニ帰セントスルニ至リ候処折角有力ナル貴組合トノ連鎖ヲ此儘断絶スルモ残念至極ナリ又北部林区ヲ放置スルモ天物暴殄ナレハ年限ヲ短縮

シテ工場建設義務ヲ免除スル故北部林区ノ内貴方希望ノ一、七林区丈ケニテモ（北部林区中一、七ハ南部ノ林区ト共ニ従来ノ希望林区ニ候）経営シテハ如何トノ新提議有之頗ル耳寄りノ話ト心躍リ候ヘトモ直チニ飛付候テハ乗セラールル惧モ有之又東京本部ノ意向ヲ徴スルノ要モ有之候間着カス離レスノ態度ヲ持シ居候今日迄機ヲ見テ屢々他条件ヲ以テ工場義務ニ代ヘント試ミ候ヘトモ一顧タモセラレサリシニ林区ノ変更ニアルトハイハ此新提議ニ接シ何トカシテ本交渉ヲ纏メントスル彼ノ誠意、焦心ハ想察スルニ難カラスト存候

一面南部林区ノ不許可ニ対シテハ田中大使トモ打合せ極力抗議ノ方法ヲ講シ居候勿論抗議其他ノ方法ニヨリ南部林区ヲ復活スルコトハ困難ナルノミナラス工場義務付ノ南部林区ハ然ラサル北部林区ニ劣ルコト明カニ候間敢テ其復活ヲ望マス候得共工場義務免除ニヨル付条件悪化ノ程度ヲ緩和抑制スルノ効果尠カラスト存シ主トシテ此目ノ二出ツルモノニ候新提案ニ対スル組合ノ意向ニ付テハ未タ何等ノ返電ニ接スルノ違無之候ヘトモ小生トシテハ既信申上候通り国礎不安定ノ当国ニ莫大ノ資金ヲ投下固定セシムルコトハ

ヲ東京ニ移スコトヲ申出テ一同帰国サレヨ

二四四 八月二十一日 在ソ連邦田中大使ヨリ  
幣原外務大臣宛（電報）

梅浦代表ヨリ利権局ノ讓歩案ニツキ報告ノ件

第三五〇号（極秘） （八月二十二日接受）

梅浦ヨリ藤田へ

利権局ヨリ讓歩案トシテ北部林区ノ外十一、十二、十三林区ノ中一又ハ二林区ヲ割愛スヘキ旨二十日回答ニ接セリ火曜日ヨリ会議再開ノ答当方ハ北部林区一、七ト共ニ右ノ中十一、十二林区ヲ主張スヘシ今回ハ工場義務ヲ除外シ七年内外ノ期限トシテ交渉ヲ進ムル積リナリ尚見込ナケレト十林区モ一応主張スヘシ

二四五 九月二日 在ソ連邦田中大使ヨリ  
幣原外務大臣宛（電報）

梅浦代表ヨリ組合ニ対シ林区ノ選択ニツキ意

見ヲ求ムル件

付記 大倉組速水篤治郎宛二瓶欧米局第一課長宛書簡

ソ連側ノ林区讓歩等ニ関スル梅浦代表ノ私信寫送付ノ件

九 日ソ間ノ利権交渉 二四四 二四五

非常ナル不安不利益ヲ伴フモノニ候間工場義務全免セラールニ於テハ仮令出材費其他ノ条件ニ多少ノ悪化アルモ彼此相償フテ余リアリト存候只条件悪化ノ程度如何カ殘ル問題ニ候要スルニ林区変更ニ基ク決裂ヲ転機トシテ新生面力打開セラレ転禍為福ノ感致候次第ニ候

勿々拝具

編註 広田欧米局長ノ註記左ノ通り

「林業利権交渉停滞ノ真相」

二四三 八月十四日 幣原外務大臣ヨリ  
在ソ連邦田中大使宛（電報）

組合ヨリ梅浦代表ニ交渉方針指示ノ件

第一八三号

露領林業組合藤田ヨリ梅浦へ

見タ若シ長引ク様ナラハ予定通り一行解散貴兄等ハ欧州ニ廻リ帰途「モスコ」ニ立寄ラルヘシ当方其後相談ノ結果飽ク迄単独行動ヲ慎ミ団体的ニ行動スルコト且折角大使ヲ煩シタルコトニモアリ先方ノ勧誘亦切ナル様子ニ付引合フ話ナラハ後日ノ為北部丈ニテモ取置クコトニ一決シタ但此話ハ前後ノ關係上云ヒ出ス機会ナクハ大使ニ依頼シ本交渉

第三八一号（極秘） （九月三日接受）

梅浦ヨリ林業組合藤田へ

四林区案ヲ提出シタルモ十一林区承認ノ結果一、七ハ難シク又十ヲ支持スレハ十二、十三危ク互ニ関連シ居ル故犠牲林区ヲ出シテ可成有利ナルモノヲ生カス外無シ工場義務免除ノ結果トシテ多少ノ讓歩已ムヲ得スト信ス犠牲区ノ順序ニ付貴見俟ツ尚林区ノ選択主張ニ付テハ全然各社個々ノ利害ヲ顧慮セス完全ナル一団ノ組合トシテノ利害得失ノミニ依リ取捨進退シツツアリ後日ノ為其趣旨諒知アリタシ  
兎ニ角交渉ハ一歩進メタル觀アリ

（付記）

大倉組速水篤治郎ヨリ二瓶欧米局第一課長宛書簡  
ソ連側ノ林区讓歩等ニ関スル梅浦代表ノ私信寫送付ノ件

大正十五年十月八日

合名会社 大倉組

速水 篤治郎

欧米局第一課長 二瓶 兵二殿

謹啓陳者在莫梅浦健吉氏ヨリ弊社門野重九郎氏宛私信寫別

紙御参考迄供貴覽申候

(別紙互)

大正十五年九月十九日

在露都

梅浦 健吉

門野 重九郎殿

謹啓然者

林業交渉ノ件

本交渉難関ノ一ナリシ林区問題モ北部一、七ノ外南部ノ最良林区十一ヲ讓歩シ来リ大体当方ノ希望ニ近付キ候ヘトモ尚一応十林区又ハ其他ノ一林区ノ添加ニ付主張ヲ試ムル積リニ候林区ノ選択ニ就キテハ各社個個ニ利害關係ヲ異ニシオル立場ヨリ自然種々ノ議論ヲ生シ勝ちニ候ヘトモ林区ノ絶対価値ヲ基礎トシ公平ニ裁断スル外無之ト存居候組合本部ニテハ「ロシア」ハ何故林区ヲ惜ムヤトノ疑念モ起リタルニ察セラレ候之レハ国营企業ヲ保護スル目的ニ出テ候モノニテ目下沿海州方面ニハ例ノ鈴木商店ト連繋シテ伐木事業ヲ経営シツツアル「ダリーレース」ト称スル国营企業有之連年損失続キニ候ヘトモ露政府トシテハ重要事業国营化

匆々拝具

ノ政策的根本主義ヨリ之レヲ助長發達セシメントノ理想ヲ抱キ居リ其レカタメニハ沿海州主要林区ノ半分ハ保留シ置クコト必要ナリトノ理由ニ基クモノニ候当方ヘ提供ノ上記一、七及十一林区ハ沿海州主要林区ノ略半過半ニ相当スルモノニ候ヘハ其意味ニ於テ相当讓歩シタルモノト思ハレ候極東ノ伐木事業ハ市場ヲ日本ニ求ムル外ナキモノニ候ヘハ日本ノ当業者全部カ完全ニ結束シテ對抗スルニ於テハ右国营ノ「ダリーレース」ノ如キハ一挙ニシテ自滅セシメ得ルモノニ候ヘトモ右ノ如ク有力ナル日本当業者ノ後援アルタメ連年ノ損失ヲ忍ヒツツ将来ノ發展ヲ画シ居ル次第ニ御座候然カシ国营ナリトテ国库ヨリ無限ニ資金ヲ供給スル訳ニハ無之候間今後ノ成績如何ニヨリテハ其計画ヲ縮少シ或ハ全然断念スルヤモ計リ難クト存居候利権局ニテモ其口吻ヲ洩ラシ此際兎ニ角短期ニテ契約ヲ成立セシメ期間満了迄ノ形勢ノ推移ヲ見テ林区等モ拡張シ長期ノ本式ノ契約ニ改締セントノ意図ヲ有シ居ル如クニ候採算ニ関スル木代金、報償金、諸税金等ノ条件ニ付テハ未タ提案無之之等重要条件全部出揃ヒタル上ニアラサレハ隠サレタル条件ニヨツテ既定条件ヲ牽制セラルルノ惧有之候ニ付交渉開始不利益ト存シ

會議ノ開催ニ応セス差控ヘ居候茲數日中ニハ全条件ノ提案アル筈ニ有之候

拜具

二四六 十二月三日 在ソ連邦田中大使ヨリ 幣原外務大臣宛(電報)

条項全部協定議了ノ件

(十二月四日接受)

第五一一号 林業組合藤田へ梅浦ヨリ 其後ノ交渉ニ依リ木代金、紅松ハ大中小各々一哥低減セルモ蝦夷、樫ハ原案ノ儘其代償トシテ移民税ヲ全廢シ後片付ケ三%ヲ更ニ減額シテ一〇%トシ条項全部協定議了セリ結局蝦夷、樫、中丸太トモ四百四十六円、小丸太四百四円ナリ悪化セル条項ハ二万円ノ免税取消シ及ヒ報償金ヲ切取り材積數及ヒトモ値段ニ依リ累進スル事トナレル等ナリ明日仮調印ヲ了シ本月十六日頃本調印ノ予定前渡金二十万留送金アレ

二四七 十二月十七日 在ソ連邦田中大使ヨリ 幣原外務大臣宛(電報)

梅浦代表ヨリ送金及ビ両替ヲソ連国立銀行ノ

九 日ソ間ノ利權交渉 二四六 二四七 二四八

ミニ限定セントスルソ連側ノ提案ニヨリ交渉不調トナリタル旨報告ノ件 (十二月十八日接受)

第五二五号(極秘) 林業組合藤田へ梅浦ヨリ

前電ノ如ク交渉完結シテ両全権最後の調印ノ交換ヲ了シタルニ拘ハラス正式調印未了ナルニ藉口シ今回突如トシテ第二十三条ノ送金及留兩替ヲ露西亜国立銀行ノミニ限定セントスル重大条項ノ追加ヲ提起シ来タレリ如斯ハ日露為替相場ノ現状ニ照シ我採算上ノ影響多大ナルヲ以テ之ヲ一蹴シ強硬ナル交渉ヲ重ネタルモ本日遂ニ不調ニ帰セリ之独リ本利權交渉ノ成否ニ止マラス将来ニ重大ナル影響ヲ及ホスモノナレハ此際外交問題トシテ又一面輿論ノ力ニ依リ彼ノ不信不義ヲ責メ飽ク迄彼ノ反省ヲ求ム可キモノト信ス当方モ田中大使ニ懇願シ最善ヲ尽ス可キモ又右目的ノ為最善ノ方法ヲ講セラレタシ

二四八 十二月十八日 在ソ連邦田中大使ヨリ 幣原外務大臣宛(電報)

送金及ビ両替機關ヲソ連国立銀行ニ限定スル件ニツイテハ反駁困難ナル旨報告ノ件



第五二六号(極秘)

(十二月十九日接受)

往電第五二五号ニ関シ

林業利權交渉ノ成行ハ大体取次電報ニテ御承知ノ通り本月二日討議ヲ終リ双方代表ニ於テ議定書ニ署名シ(尤モ修正スル事アル旨ノ留保アリ)九日仮調印ノ答ナリシ処先方ハ事業資金ノ送金及兩替機關ハ之ヲ其国立銀行ニ限ル旨明定方申出テ我方ハ浦潮鮮銀ヲモ含マシメントシ之カ為十七日一応不調トナレリ然ルニ我方ハ既ニ事業資金ノ最低額ヲ定メ之ヲ全部外国貨幣ヲ以テ送金ス可キ事右送金(脱?)モ取扱得ルモ兩替ハ公定相場ニ依ル可キ旨ノ規定ニ同意ヲ与ヘ居ル關係モアリ先方カ最近ニ於ケルカ如ク極東ニ於テ露貨下落ノ場合其為替維持策上国立銀行所定率ニ依ル可キ旨主張スル事アル可キハ必スシモ予見シ得サリシニアラサルノミナラス今日之ニ対シ正面ヨリ反駁スルハ理由ニ乏シキカ如シ而シテ我方カ先方ノ主張ニ同意ヲ難スルハ下落セル露貨ヲ利用シ得ストノ一点ニ帰シ若シ浦潮ニ鮮銀ナク又銀行券ノ流通モナク且他ノ同業者モ下落露貨利用ノ途ナシトセハ別問題ニテ採算上モ支障ナキ筈ナリ

右ニ付梅浦ヨリ当国政府ニ対シ不信行為トシテ抗議方懇望

アリタルモ本使トシテハ前述ノ成行ニ依リ必スシモ不信ヲ責ム可キ立場ニ非サルニ付尚一応梅浦ニ於テ「ヨッフエ」ニ懇談方懇願スルト共ニ政府当局ニ対シテ本使ヨリ本件交渉ノ不調ハ我官民ヲ甚タシク失望セシメ兩國經濟接近ノ為遺憾ナルニ付再考ヲ希望ストノ主旨ニ依リ懇談ヲ試ムノ外ナキモ差当リノ効果ハ期シ難カル可キ旨答ヘ置ケリ

二四九 十二月十九日 在ソ連邦田中大使ヨリ  
幣原外務大臣宛(電報)

梅浦代表ヨリ契約破棄ヲ覚悟シ引揚ヲ決行ス

ル旨報告ノ件

第五二七号(極秘)

(十二月二十日接受)

露領林業組合藤田ハ梅浦ヨリ  
前電ノ如ク政府ハ利權者ノ事業所要資金全部ヲ政府銀行ヲ經由送金セシメ「ルーブル」ノ實際相場ニ拘ハラズ国定相場テ兩替ヲ強イントスルモノニシテ現在浦潮ニテハ国定相場ト實際相場トノ差約一割三分ニ達スルヲ以テ毎年ノ所要資金約二百万円ニ対シ二十六万内外ノ差損ヲ生シ我耐フル所ニ非ス(朝鮮銀行ノ「ルーブル」兩替營業ハ近キ將來ニ禁止セラルヘシトノ説モアリ若シ然ラハ結局国定相場ニ

テ縛ラルヘキモ)故ニ此ノ際契約破棄ヲ覚悟シ飽迄讓歩スヘキモノニ非スト信ス而シテ政府ハ我足下ヲ見折角成立シタル契約ヲコノ問題ノミニテ破棄ニ終ラシムルカ如キコトナカルヘシト見縊リ居ルカ如ク感セラるルヲ以テ最善ノ対策ハ断然引揚ヲ決行スルニ在リト思ハル然ル上ハ大使ノ調停ト相俟ツテ近キ將來ニ六分ノ復活性アリト信ス右方針ニ基キ數日中一行当地ニテ解散シ各自自由行動ヲ執ルヲ以テ組合各社ハ自由ノ許ス限り各所属社員ヲシテ当地引揚(脱)ヲ講セシメ右行動ヲ有力ナラシムルコトヲ希望ス

二五〇 (昭和元年) 在ソ連邦田中大使ヨリ  
十二月二十八日(着) 幣原外務大臣宛(電報)

梅浦代表ヨリ送金及ビ兩替問題ニ関スル交渉

狀況報告ノ件

第五三八号(極秘)

林業組合藤田ハ梅浦ヨリ

貴電拜見仮調印セル本件即チ四十三条ノ要旨ハ

(一)事業所要資金トシテ毎年払下木材一立方ニ付二十一哥ヲ

下ラサル限度ニ於テ内地ヨリ外貨即チ日本貨幣ヲ以テ送

金スル事

九 日ノ間ノ利權交渉 二五〇

(二)右送金シタル外貨ハ留ヲ以テ引出シ使用スル事(露西亞国内ニ於テハ外貨ノ使用ヲ許ササレハナリ)

(三)右換算率ハ引出シタル当日ノ浦塩取引所相場ニ依ル事

(四)上記送金及預金並ニ換算ハ露国銀行又ハ外国銀行即チ鮮銀支店ニ於テ之ヲ行フ

右ノ如クニシテ本条項ハ既ニ屈辱的ノモノナルモ露西亞ノ幣制方針ヲ尊重シ又鮮銀トノ取引ナレハ(一)及(三)ヲ緩和スヘキ別個ノ協定ヲ鮮銀ト為シ得ヘキヲ信ス(鮮銀浦塩支店発表ノ留為替率ト浦塩取引所ノ相場トハ最近一割三分内外ノ差有リ故ニ(三)ニ依リ取引所相場ヲ以テ鮮銀支店ト兩替ヲ為サハ鮮銀ハ右一割三分内外ノ兩替差益ヲ獲得スルヲ以テ借入金其ノ他ノ方法ニ依リ右利益ノ割戻シヲ受ケ得ヘキヲ思ヒ右協定シタルナリ)

然ルニ政府ハ最近留相場ノ大下落ニ依リ幣制ノ統一改善ノ急務ナルヲ感シ公定相場以下ノ取引ヲ嚴重ニ取締ル為利權者ト鮮銀ノ取引ヲ遮断スルノ必要ヲ思ヒ上記送金預金留換算等ヲ總テ露西亞国立銀行ノミニ限定スヘク条文ノ改訂ヲ提起シ来リタルナリ依テ当方ハ其ノ不信義ナルヲ難詰スルト同時ニ現在鮮銀支店ハ一般市民ト送金及留兩替等ノ業務

ヲ為シツツアルニ独リ利権者ノミニ之ヲ禁スルノ無法ヲ責  
メ利権者ハ決シテ契約ニ違反シ公定相場以下ニテ鮮銀ト両  
替スルモノニ非ルモ鮮銀ニ利益ヲ与フルハ借入金其ノ他ノ  
代償の利益ヲ得ルニ依リ其ノ許容ヲ迫リ数次交渉ノ末他ノ  
利権契約ノ前例トナルヲ虞ル政府ノ意志ヲ尊重シ契約原文  
ハ政府案ヲ採用スル代リニ鮮銀支店カ送金及留兩替等ノ業

務ヲ存続スル限り(将来露西亞ノ政策上之ヲ禁スレハ致シ  
方ナキモ)利権者ハ之ヲ利用シ得ル事ノ覺書ヲ別紙ニテ利  
権局ヨリ徴スル事ニシタルニ数日前内示セル文案及形式ハ  
確實性ヲ欠キ効力疑ハシク当方ハ其ノ訂正ヲ迫レルモ頑ト  
シテ応セス目下危急状態ニ在リ

### 事項一〇 日ソ漁業問題

二五一 一月十九日 在ハバロフスク川角総領事代理ヨリ  
幣原外務大臣宛

漁業競売計画ニ関スル極東革命委員会機關紙  
ノ報道ニツキ報告ノ件

公第一四号

(二月五日接受)

大正十五年一月十九日

在ハバロフスク

総領事代理 川角 忠雄 (印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

新漁区ニ関スル件

本件ニ関シ客年十二月二十二日当地極東革命委員会機關紙  
雜報欄ニ左ノ記事ヲ掲載セリ

最近漁業庁ハ来期新ニ競売ニ付スヘキ漁区ノ調査ヲ了ヘタ  
ルカ右調査ニ依レハ海岸漁区百十箇所河川漁区百四十一箇  
所ニシテ計二百五十一箇所ナリ右ノ内ニハ製魚区九十九箇  
所並各種海産物採取ノ漁区百十二箇所ヲ含メリ而シテ地方  
士民ニ対スル漁区貸下方ニ関シテハ当局ハ特別ノ考慮ヲ払

ヒ居レル趣ナルカ来期漁業ニ依ル国庫ノ収入ハ之ヲ露貨三  
百万留ト算定シ居レリ云々

依テ本官ハ先般農務全權「マモール」ニ会见ノ際前記記  
事ノ実否ヲ確メタル所右ハ極革機關紙記者カ当漁業庁ニ於  
テ大要ヲ聞合セ単ニ概数ノミヲ掲載シタルモノナルヘシト  
語り居タリ

右何等御参考迄報告ス

二五二 一月二十八日 在ハバロフスク川角総領事代理ヨリ  
幣原外務大臣宛 (電報)

大正十五年度漁区表、競売期日等ニツキ報告

ノ件

第一九号

農務庁二十三日付十五年度漁区表裁可、競売ハ三月四日午  
前十時ヨリ午後零時迄漁業庁ニ於テ施行、契約期間一ケ  
年、其他条件昨年ト同様ニ付省略

(但シ其後競売ハ三月十四日ニ変更)

発表漁区左ノ通